

令和7年度全国工業高等学校長協会事業計画
(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

公益社団法人 全国工業高等学校長協会
ホームページ <https://zenkoukyo.or.jp/>

令和7年度 事業計画目次

I	事業計画概要	56
II	協会実施の公益事業	56
【I】	工業教育の普及振興に関する講習、研修、調査研究、資料収集、表彰等事業、競技会、その他の事業	
1	講習、研修	
2	調査研究、資料収集	
3	表彰等事業	
4	競技会、その他の事業	
【II】	工業教育に関する検定試験等の実施、並びにその技能度の登録及び証明書の発行	60
1	検定	
2	高等学校工業基礎学力テスト	
【III】	工業教育に関する内外の諸団体との連携及び情報交換	60
1	関係諸官庁、教育団体、産業界との連携	
2	陳情活動	
【IV】	その他この法人の目的を達成するために必要な事業	60
1	助成事業	
2	附属工業教育研究所事業計画	
3	その他の事業	
III	協会実施の法人運営等	62
【I】	総会、理事会、業務執行理事会、委員会、運営連絡協議会、研究協議会、代表校長研究協議会等の実施	
【II】	事務局運営	
IV	協会実施の収益事業	62
【I】	検定試験に関する出版物の刊行	
【II】	施設を効率的に活用するための貸室事業	
V	事業計画詳細	63
【I】	第76回総会・研究協議会実施要項	
【II】	第73回研究協議会（岩手大会）	
【III】	理事会・業務執行理事会・運営連絡協議会等開催	
【IV】	各地区工業高等学校長会総会・研究協議会	
【V】	代表校長研究協議会	
【VI】	夏季講習会開催要項	
【VII】	第14回全国工業教育指導者養成講習会実施要項	
【VIII】	第25回高校生海外研修実施要項	
【IX】	ジュニアマイスター顕彰制度 実施要項	
【X】	生徒・教職員表彰事業（全工協会表彰規程の概要）	
【X I】	第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会実施要項	
【X II】	全日本ロボット相撲大会 2025 開催要項	
【X III】	第42回全国製図コンクール実施要項	
【X IV】	第23回高校生技術・アイデアコンテスト全国大会実施要項	
【X V】	ジャパンマイコンカーラリー2026 全国大会実施要項	

巻末資料

- 資料1 令和7年度 全国工業高等学校長協会 役員（案）
- 資料2 令和7年度 全国工業高等学校長協会 都道府県私学代表校長一覧（案）
- 資料3 令和7年度 全国工業高等学校長協会 新名誉会員（案）・顧問（案）
- 資料4 令和7年度 調査研究部委員会名簿（案）、令和7年度 調査研究部 年間活動計画（案）
- 資料5 第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会・ポスター
- 資料6 第35回 全国産業教育フェア福島大会・ポスター（全国高等学校ロボット競技大会 福島大会）
- 資料7 全工協会 令和7年度 年間行事予定
- 資料8 全工協会 令和7年度 組織及び事業概要

I 事業計画概要

わが国の工業教育の普及振興に努めるとともに、工業教育の充実を図るため、資格付与に関する検定試験の実施とその関連出版物を刊行し、似て、わが国における産業の発展に役立つ工業教育の振興に寄与することを目的として次の事業を運営する。

- [I] 工業教育の普及振興に関する講習、研修、調査研究、資料収集、表彰等事業、競技会、その他の事業
- [II] 工業教育に関する検定試験の実施、並びにその技能度の登録及び証明書の発行
- [III] 工業教育に関する内外の諸団体との連携及び情報交換
- [IV] その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- [V] 検定試験に関する出版物の刊行
- [VI] 施設を効率的に活用するための貸室事業

前項[I]から[IV]までの事業は、公益目的事業として本邦及び海外において行うものとする。

なお、公益法人化に伴う文書や規則等の整備を進めるとともに事業の改善を図る。

II 協会実施の公益事業

【I】工業教育の普及振興に関する講習、研修、調査研究、資料収集、表彰等事業、競技会、その他の事業

1 講習、研修

(1) 教職員の指導力等資質向上を目指した夏季講習会の実施

工業科教員の指導力育成を目指し、各地区における教員の研修機会の充実を図ることを目的として、協会主催による夏季講習会を実施する。講習会にて実施する講習は、産業界や各企業の協力を得て実社会で実践されている技術・技能、工業教育を推し進める上で大切なものづくりの基本となる技術・技能について行う。

(2) 国際社会に羽ばたく将来のものづくり人材育成を目指した高校生海外研修の実施

令和7年度第25回海外研修は、昨年度と同様に、生徒の負担を軽減でき、治安も安定しているタイ王国を訪問国として令和7年7月19日(土)～7月26日(土)に実施する。この海外研修を通して海外で働くうえでの厳しさや楽しさ、今後の技術者のあるべき姿などを学び、これからの国際社会に羽ばたく人材育成を目指し参加生徒を募集する。なお、今年度も生徒の募集人員が定員に満たない場合は、教員も参加できるようにする。

(3) 全国工業教育指導者養成講習会の実施

全国から工業教育に係わる指導力ある教員を募集し、合宿による講習会実施を通して工業教育を牽引すべく指導教員の育成を図る。14回目となる令和7年度は、合計24名の教員を集めて7日間(含前泊)の日程で実施する。

開催期日 令和7年7月27日(日)～8月2日(土)

会場 工業教育会館(全国工業高等学校長協会)

2 調査研究、資料収集

(1) 研究協議会

本協会及び会員校における調査・研究の発表の場として、全国の会員が集まり、研究協議を行う。会場は各地区持ち回りとする。令和7年度は、東北地区が担当する。

開催期日 令和7年10月16日(木)～17日(金)

会場 ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウイング
〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通2番27号

事務局 第73回研究協議会岩手大会事務局 代表 岩手県立盛岡工業高等学校長 菅原 基

(2) 調査研究部・4調査委員会

学校経営委員会、進路対策委員会、教育課程委員会、入学対策委員会の4委員会が毎年継続したテーマで実施する悉皆調査に加え、工業教育の今日的課題ともいえる時代に即したテーマによる調査研究を進め、その成果を研究協議会で発表する。

なお、4調査委員会の年間のスケジュールは以下のとおりである。

- ・会員校への調査依頼……………5月1日(木)予定
- ・調査回収……………締切6月6日(金)予定
- ・各調査委員会……………7月～8月中旬
- ・調査研究部委員長・研究協議会(企画会議)……………第1回6月中旬、第2回9月26日(金)
- ・発表(研究協議会)……………10月16日(木)

- 1) 学校経営委員会調査項目
 - ①工業科教員等の過員及び欠員に関する調査(都道府県代表校長)
 - ②新規採用教員の選考状況に関する調査(都道府県代表校長)
 - ③工業高校の施設整備に関する調査(都道府県代表校長)
 - ④工業科教員の再任用に関する調査(全会員校への悉皆調査)
- 2) 進路対策委員会調査項目
 - ①令和7年3月、全国の全日制工業科設置校及び工業系学科に在籍した生徒を対象とした卒業生に対する進路状況調査を実施する。
 - ②令和8年3月卒業予定の、全国の工業科及び工業系学科に在籍する生徒等の進学希望の状況調査を実施する。
 - ③離職率調査については、昨年度と同様、特定の地区を対象に調査を実施する。
- 3) 教育課程委員会調査項目
 - ①教育課程・学科編成について
 - ②教育制度・学校改革について
 - ③産学連携・地域連携について
 - ④学習指導・評価について
- 4) 入学対策委員会調査項目
 - ①学科別応募状況に関する調査
 - ②学級数に関する調査
 - ③入試制度に関する調査
 - ④地域との連携等に関する調査
- (3) 事業検討委員会

事業検討委員会規程に基づき、本協会に係わる事業・運営を見直し、公益法人としての改善案等を検討することを目的として平成24年度に発足した。令和7年度も継続して事業改善に向けて検討を継続する。
- (4) 工業教育研究所運営

工業教育に係る調査研究並びに発表、全国工業高等学校長協会として政策提言等に必要な各種データや資料収集を行う。

 - 1) 調査事項
 - ①工業高校活性化に係る調査研究
 - ②工業高校卒業生の進路状況調査
 - ③その他(工業高校を支援する資料の収集他)
 - 2) 研究資料の収集等
 - ①資料の収集と整理・保存
 - ②調査研究報告
 - 3) 委員会等開催調整と支援
 - ①調査研究部委員会
 - ②機関誌「工業教育」編集委員会
 - ③全国工業教育指導者養成講習会
 - 4) 夏季講習会企画・運営
 - 5) 要覧校正
 - 6) 高等学校工業基礎学力テスト委員会
 - 7) その他
- (5) 広報事業

協会の事業を外部の方に知ってもらうために、広報用パンフレット、ホームページ、各種教育資料などを通して、情報発信を行う。

 - 1) 広報用リーフレット等の製作
 - ①工業高校の活動を紹介するPRパンフレット「きらめく工業高校 令和6年度版」の活用
 - ②新聞広報等による協会事業の周知とPR活動
 - 2) ホームページ等運用管理
 - ①ホームページ・SNS等を利用した全国工業高等学校長協会及び会員校の活動状況の広報

- 3) 全国工業高等学校要覧、全工資料などの各種教育資料の刊行
 - ①令和7年度 全国工業高等学校要覧の編集と刊行
 - ②機関誌「工業教育」の年4回の刊行と全国工業高等学校長協会会員、賛助会員への頒布
 - ③その他の教育資料及び広報資料の編集と刊行
 - ④全工資料の編集と刊行
- (6) 調査研究事業(その他の調査研究活動)
 - 1) 工業高校生の資質能力の向上のため、高等学校工業基礎学力テスト委員会を中心に「工業基礎学力テスト」の作成に取り組む。
 - 2) 評価手法研究委員会

平成25～27年度実施 文部科学省委託事業「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の調査研究」を本協会主催として継続してきたが、令和3年度をもって実践研究校の応募を中止。

令和4年度、教員研修の実施やホームページに関連資料を提供した。令和5年度以降は活動を中止。

3 表彰等事業

- (1) ジュニアマイスター顕彰

学習成果を総合的に評価顕彰することで、工業科生徒の学力保証につなげるとともに、生徒の目的意識の明確化と学習意欲の向上を図る。なお、平成23年度から導入した電子申請により、安全で迅速な申請作業並びに事務処理が可能となった。申請についての日程は以下を予定している。

 - 1) 前期申請(前期のみブロンズの申請あり)
 - ① 前期申請締切……………7月28日(月)必着
 - ② 認定委員会の開催……………8月5日(火)
 - ③ 認定書の送付予定日……………8月中旬以降順次発送
 - 2) 後期申請
 - ① 後期申請締切……………1月30日(金)必着
 - ② 認定委員会の開催……………2月10日(火)
 - ③ 認定書の送付予定日……………2月中旬以降順次発送
- (2) 生徒・教職員表彰

公益社団法人全国工業高等学校長協会表彰規程に基づき、工業教育の充実・振興について特に実績が顕著であった個人またはグループに対して、原則として都道府県ごとに1件を表彰する。令和7年度「生徒・教職員表彰」を実施する。

 - 1) 表彰者
 - ①教職員
 - ②生徒
 - 2) 推薦期日 令和7年12月20日(土)厳守
 - 3) 決 定 令和8年2月15日(日)頃迄に当該高等学校長宛文書をもって通知する。

4 競技会、その他の事業

- (1) 第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会

我が国の持続的発展を維持するためには、産業を支える技術・技能水準の向上を図るとともに、若年技術・技能労働者を確保し育成することが急務である。全国工業高等学校長協会では、全国から選抜された高校生が一堂に会し、旋盤作業・自動車整備・電気工事・電子回路組立・化学分析・木材加工・測量・溶接など、工業高校生の学習成果発表の場を設けて技術・技能を競い合う「高校生ものづくりコンテスト全国大会」を開催している。平成23年度から、全国産業教育フェアとの同時開催から離れ、協会主催事業として単独で開催することとなったため、各地区持ち回りで実施することになった。なお、令和6年度からは、溶接が正式競技となった。令和7年度は、四国地区で開催する。

 - 1) 開催期日 令和7年11月8日(土)～9日(日)
 - 2) 会 場

①旋盤作業	：愛媛県	愛媛職業能力開発促進センター (ポリテクセンター愛媛)
②自動車整備	：香川県	学校法人 穴吹学園 専門学校 穴吹工科カレッジ
③電気工事	：徳島県	徳島県立徳島科学技術高等学校
④電子回路組立	：高知県	高知県立高知東工業高等学校
⑤化学分析	：愛媛県	愛媛県立松山工業高等学校

- ⑥木材加工 : 香川県 香川地域職業訓練センター
 - ⑦測 量 : 高知県 高知県立高知工業高等学校
 - ⑧溶 接 : 徳島県 徳島県立中央テクノスクール
 - 3) 実行委員長 愛媛県立松山工業高等学校 校長 宮地 洋安
〒790-0021 愛媛県松山市真砂町1番地
TEL 089-931-8195 FAX 089-931-8860
 - 4) 事務局 愛媛県立新居浜工業高等学校 教頭 高橋 眞吾
〒792-0004 愛媛県新居浜市北新町8番1号
TEL 0897-37-2029 FAX 0897-37-6440
- (2) 高校生ロボット相撲全国大会 2025(含む審判講習会・地区大会)
 高等学校工業科生徒にロボット作りを通じてものづくり技術の基礎・基本を確実に習得させるとともに、目標達成に向け実際に直面する問題解決能力を養う。また、生徒の学習意欲の向上と自発的・創造的な学習態度の育成を目指す。
 全国大会の開催日時・場所は以下を予定している。
- 1) 開催期日 令和7年11月22日(土)
 - 2) 会 場 ビッグパレットふくしま予定(〒963-0115 福島県郡山市南二丁目52番地)
- (3) ジャパンマイコンカーラリー2026 全国大会
 マイコンカーラリー競技を通してメカトロニクス技術の基礎・基本の習得、自発的・創造的な学習態度の育成を図るとともに、ものづくりによる課題解決型教育を推進し、新技術への夢を育む。
- 1) 開催期日 令和8年1月10日(土)～11日(日)
 - 2) 会 場 北海道地区 日本工学院北海道専門学校体育館(〒059-8601 北海道登別市札内町184-3)
- (4) 令和7年度(第42回)全国製図コンクール
 手書き製図の重要性に鑑み、各学科の専門分野の製図の基礎的な知識と技術を総合的に習得し、製作図・設計図などを正しく読み、図面の作成能力を向上するため、機械系・電気系の製図コンクールを実施する。コンクールは参加校の校内製図コンクールを経た最優秀作品1点を募集し、全国製図コンクールを実施する。
- 1) 実施要項の配付…………… 令和7年4月1日付ホームページに掲載
 - 2) エントリー期間……………9月1日(月)～9月30日(火)
 - 3) 参加校からの最優秀作品応募締切…………… 10月31日(金)
 - 4) 発 表……………入賞校宛通知、ホームページ並びに機関誌「工業教育」1月号にて発表
- (5) 第23回高校生技術・アイデアコンテスト全国大会
 現代の工業技術の進展に伴い、これからは技術的課題を改善するだけでなく、身に付けた知識、技術及び技能を活用して、ものづくりができる創造的な能力と実践的な態度の育成が求められている。本事業を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な態度を育てる。
- 1) 応募日程 令和7年11月4日(火)～令和7年12月24日(水)
 - 2) 応募資格 全工協会会員校の生徒(個人、グループのいずれでも可)
 - 3) 発 表 令和8年1月23日(金) 該当校に連絡の上、全工協会ホームページにて発表
 - 4) 特 典 入賞作品はジュニアマイスター顕彰制度の得点になる。
 - 5) 応募方法 協会 Web ページを参照
- (6) 展示会・競技会等への支援
- 1) 文部科学省、福島県主催による「第35回全国産業教育フェア」開催に係る支援
 開催期日 令和7年10月25日(土)～26日(日)
 会 場 ビッグパレットふくしま(メイン会場)
 - 2) 第33回全国高等学校ロボット競技大会への支援
 開催期日 令和7年10月25日(土)～26日(日)
 会 場 郡山総合体育館
 - 3) 各地区工業校長会及び工業教育振興に係る事業の後援並びに支援

【Ⅱ】工業教育に関する検定試験の実施、並びにその技能度の登録及び証明書の発行

1 検定

(1) 第 92 回計算技術検定(文部科学省後援)	実施日	令和 7 年 6 月 20 日(金)
(2) 第 93 回計算技術検定(文部科学省後援)	実施日	令和 7 年 11 月 21 日(金)
(3) 第 56 回機械製図検定	1 次試験基準日	令和 7 年 6 月 13 日(金)
	2 次試験基準日	令和 7 年 7 月 4 日(金)
(4) 第 38 回基礎製図検定	基準日	令和 7 年 9 月 12 日(金)
(5) 第 74 回情報技術検定(文部科学省後援)	実施日	令和 7 年 6 月 27 日(金)
(6) 第 75 回情報技術検定(文部科学省後援)	実施日	令和 8 年 1 月 16 日(金)
(7) 第 31 回リスニング英語検定	基準日	令和 7 年 10 月 10 日(金)
(8) 第 30 回グラフィックデザイン検定	基準日	令和 8 年 1 月 16 日(金)
(9) 第 49 回パソコン利用技術検定	基準日	令和 7 年 7 月 11 日(金)
(10) 第 50 回パソコン利用技術検定	基準日	令和 7 年 12 月 12 日(金)
(11) 第 25 回初級 CAD 検定	基準日	令和 7 年 7 月 11 日(金)

2 高等学校工業基礎学力テスト

本協会が実施する 10 分野・科目の基礎学力テストは、工業教育の質の確保・向上の観点から、生徒の基礎学力の習得と学習意欲の向上を図るとともに、客観的でより広い視野から自校生徒の基礎学力の定着度合いを把握し指導の工夫・充実に資することを目的とした事業である。

(1) 実施日時 令和 8 年 2 月 6 日(金) (実施：各校内)

(2) 実施分野名

- 1) 工業情報数理(工業情報数理)
- 2) 機 械(機械工作、機械設計、機械製図)
- 3) 電 気(電気回路、工業情報数理)
- 4) 化 学(工業化学、化学工学、地球環境化学)
- 5) 建 築(建築構造設計、建築構造、建築計画、建築製図)
- 6) 土 木(土木基礎力学、測量、土木製図)
- 7) 織 維(繊維製品)
- 8) 材 料(工業材料、材料加工)
- 9) 設 備(空気調和設備、衛生・防災設備、設備計画)
- 10) デザイン(デザイン技術、デザイン材料、デザイン製図、デザイン史、工業情報数理)

【Ⅲ】工業教育に関する内外の諸団体との連携及び情報交換

1 関係諸官庁、教育団体、産業界との連携

国・各省庁等関係諸団体との連絡調整及び要請行動、産業教育の充実・振興のための積極的な取組と活動を行う。また、産業教育振興中央会との連携、専門高校に係わる課題解決等の協議会等開催、活動の推進を図る。

2 陳情活動

- (1) 大学への推薦拡大及び特別選考についての要請活動
- (2) 就職先拡大を働きかけるための各企業や関係団体との連携(各都道府県ごと)
- (3) 職業教育充実のための要請活動

【Ⅳ】その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1 助成事業

- (1) 工業教育推進事業
 - 1) 各都道府県工業校長会への工業教育推進事業活動への助成、その他工業教育の振興を目的とした諸関係団体への事業の充実・発展に向けた活動に対する助成をする 4,000 万円(予定)
 - 2) 第 33 回全国高等学校ロボット競技大会(福島大会)への助成 150 万円
(次年度開催地区準備金 100 万円、開催年度担当地区 50 万円)
 - 3) 産業教育フェア工業高校関連部門への補助 150 万円
- (2) 傘下学科別研究団体(31 団体)への助成事業 155 万円

- (3) 各地区工業校長会研究協議会への研究助成並びに特別助成事業
 - 1) 各地区工業校長会研究協議会への研究助成 1地区 20万円(9地区、私学)・・・200万円
 - 2) 各地区工業校長会研究協議会への特別助成 1地区 10万円(9地区)・・・90万円
 - 3) 第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会・・・800万円
 (開催地：四国地区、開催年度担当地区 600万円、
 次年度開催地：北海道地区、次年度開催地区準備金 100万円、
 9年度開催地：中国地区、9年度開催地区準備金 100万円)
 - 4) ジャパンマイコンカーラリー2026 全国大会・・・200万円
- (4) 研究協議会開催県への助成
 - 1) 第73回研究協議会(岩手大会)への助成・・・200万円
 - 2) 第73回研究協議会(岩手大会)での理事会への助成・・・10万円

2 付属工業教育研究所事業計画

- (1) 調査事項
 - 1) 工業高校活性化に係る調査研究
 - 2) 令和6年度教育課程調査及び分析
 - 3) 令和7年度工業高校生の国家資格取得状況の調査
 - 4) 令和7年度理工系大学推薦入学状況進学調査
 - 5) その他(工業高校を支援する資料の収集他)
- (2) 研究資料の収集等
 - 1) 資料の収集
 - 2) 資料文書等の整理・保存
- (3) 研究報告
 - 1) 機関誌「工業教育」への発表
 - 2) 国家資格調査、工業科目履修調査、理工科系大学進学推薦入学状況調査等の報告
 - 3) 調査研究報告 第34号発行
 - 4) 各教育研究会報告書の取りまとめ(報告書発行)
 - 5) その他
- (4) 調査研究部委員会への協力(4調査委員会との連携)
 - 1) 進路対策委員会
 - 2) 教育課程委員会
 - 3) 学校経営委員会
 - 4) 入学対策委員会
- (5) 調査研究部企画会議の開催(令和7年9月26日(金))
- (6) 特設委員会等への協力(リーフレット編集等)
- (7) 夏季講習会企画
- (8) 要覧編集への協力
- (9) 機関誌編集への協力
- (10) 工業教育指導者養成講習会実行委員会との企画・運営・実施・連携
- (11) その他
 - 1) 協会・研究所所有図書を整備、デジタル化の研究及び対応
 - 2) 工業教育研究所業務関係記録
 - 3) 外部からの調査研究活動への援助
 - 4) 本協会行事への参加
 - 5) 情報収集活動
 - 6) 令和7年度事業報告の作成
 - 7) 付属工業教育研究所の歩みの整理
 - 8) その他

3 その他の事業

- (1) 公益法人に関係した取組
未整備あるいは見直す必要のある規定等を整備する。
- (2) 施設貸与
公益事業の一貫として、全国工業高等学校長協会傘下の各研究団体並びに工業教育の振興を目的とする関係団体に対して、会議室・ホールを無料または実費相当にて貸与する。
 - 1) 工業教育会館 2階 視聴覚室ホール (定員 100～150名)
 - 2) 工業教育会館 5階 第1～第4会議室(定員 18～26名)

III 協会実施の法人運営等

【I】総会、理事会、業務執行理事会、委員会、運営連絡協議会、研究協議会、代表校長研究協議会等の実施

1 総会、理事会、業務執行理事会、委員会、運営連絡協議会等

- (1) 事業計画、事業報告書の作成
- (2) 収支計算書、収支予算書の作成
- (3) 総会企画と実施
- (4) 理事会、業務執行理事会の企画と実施
- (5) 各種委員会の企画と実施
- (6) 運営連絡協議会の企画と実施
- (7) 研究協議会の企画と実施
- (8) 代表校長研究協議会の企画と実施
- (9) その他

2 事業監査、会計監査、財産目録監査の実施

- (1) 令和6年度の事業、会計、財産目録の監査・・・・・・・・・・ 令和7年5月2日(金)
- (2) 令和7年度上期監査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和7年11月中旬

【II】事務局運営

1 事務局運営業務

- (1) 法人会員募集・会費徴収等の事務
 - (2) 総会開催等の運営業務
 - (3) 各種委員会開催事務
 - (4) 税務、社会保険関係書類の作成
 - (5) 法人登記並びに資産管理等の業務
 - (6) 公益法人法に基づく会計処理業務
 - (7) 工業教育会館収益事業(テナント)に係る管理業務
 - (8) 事務局及び工業教育会館の維持・管理(維持に必要な修理等)
 - (9) ホームページの更新等の運営管理
 - (10) インターネット施設の運営管理
 - (11) 調査・申請等、事務局・研究所業務のICT化推進
- 2 その他この法人の目的達成のために必要な業務

IV 協会実施の収益事業

【I】検定試験に関する出版物の刊行

- 1 検定問題集製作発刊
- 2 検定問題集の販売

【II】施設を効率的に活用するための貸室事業

- 1 工業教育会館テナント階(6F～9F)の運用と維持管理業務

V 事業計画詳細

【I】第76回総会・研究協議会実施要項

日 時 令和7年5月27日(火) 10:00～17:00

場 所 日本工学院専門学校・蒲田キャンパス 片柳記念ホール (大講義室)
東京都大田区西蒲田 5-23-22 TEL 03-3732-1111

1 開 会 式 (10時00分～10時50分)

進行：事務局長

- (1) 開 式 の 挨 拶
- (2) 国 歌 斉 唱
- (3) 理 事 長 挨 拶
- (4) 来 賓 祝 辞
- (5) 来 賓 紹 介
- (6) 物故者に対する黙禱
- (7) 叙勲者の紹介 (令和6年度)
- (8) 新名誉会員の紹介並びに退職役員に対する記念品贈呈
- (9) 閉 式 の 挨 拶

2 総 会 (11時00分～12時30分)

- (1) 開 会 宣 言
- (2) 議 長 選 出 (定款第15条により議長は理事長が行う)
- (3) 議 事
- (4) 報 告 事 項

【昼 食】(12時30分～13時30分)

3 研 究 協 議 (13時30分～15時00分)

- (1) 基調発表(1)
「高等学校におけるコミュニティ・スクールの導入促進について」
講師：文部科学省 総合教育政策局 地域学校協働推進室長 山本 悟 氏
- (2) 基調発表(2)
「つながる学校 つなげる教育課程 ～異校種の扉は内側からしか開かない～」
講師：狛江市教育委員会 教育長 柏原 聖子 氏
- (3) 基調発表(3)
「六郷工科高校の地域連携 ～地域とともにある学校づくり～」
講師：東京都立六郷工科高等学校 統括校長 釵持 利治 氏
- (4) 質疑応答

4 講 演 (15時15分～16時45分)

- (1) 講師紹介
- (2) 演 題
「～中小企業の事例にみる！大人の『チーム運営』勘どころ～」
(パネルディスカッション)
講師：田代精工株式会社 代表取締役社長 伊藤千佳子 氏
株式会社ブラザー 常務取締役 石田 侑佳 氏
- (3) 謝 辞

5 閉会の挨拶等 (16時45分～17時00分)

【Ⅱ】第73回研究協議会（岩手大会）

テーマ「地域と共に歩む工業教育～未来の産業を担う工業人財の育成を目指して～」

期 間 令和7年10月16日（木）～17日（金）

会 場 ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウイング

〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通2番27号

大会実行委員長：岩手県立盛岡工業高等学校 校長 菅原 基

第1日 10月16日（木）（13時00分～17時00分）

1 開会行事

- (1) 開会の辞
- (2) 国歌斉唱
- (3) 理事長挨拶
- (4) 大会会長挨拶
- (5) 来賓祝辞
- (6) 来賓紹介
- (7) 祝電披露
- (8) 閉会の辞

2 文部科学省講話

3 研究協議（その1）

- (1) 調査研究部報告
- (2) 本協会事業の取組・意見交換

第2日 10月17日（金）（9時00分～15時00分）

4 講演

- (1) 講師紹介
- (2) 講演

演題「光り輝く三陸を目指して～「さんてつ」でつながる・みんなの未来～」

講師 三陸鉄道株式会社 代表取締役社長 石川 義晃 様

5 研究協議（その2）

地区提案協議Ⅰ（北海道地区、北信越地区、近畿地区）

6 研究協議（その3）

地区提案協議Ⅱ（中国地区、四国地区、九州地区）

7 閉会行事

- (1) 開会の辞
- (2) 理事長挨拶
- (3) 大会会長挨拶並びに次年度開催地区の指名
- (4) 次年度開催地区代表挨拶（関東地区）
- (5) 閉会の辞

【Ⅲ】理事会・業務執行理事会・運営連絡協議会等開催

1 業務執行理事会：年間6回程度、工業教育会館にて開催する。

2 理事会

- | | |
|----------------------------------|---------------|
| (1) 第448回理事会：工業教育会館 | 令和7年5月2日（金） |
| (2) 第449回理事会：日本工学院専門学校 | 令和7年5月27日（火） |
| (3) 第450回理事会：工業教育会館 | 令和7年8月1日（金） |
| (4) 第451回理事会：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング | 令和7年10月16日（金） |
| (5) 第452回関西理事会：近畿地区：（場所未定） | 令和7年12月5日（金） |
| (6) 第453回理事会：工業教育会館 | 令和8年1月30日（金） |
| 3 運営連絡協議会（第1回）：工業教育会館 | 令和7年9月12日（金） |
| （第2回）：工業教育会館 | 令和8年2月13日（金） |

【IV】各地区工業高等学校校長会総会・研究協議会

No	地区名	会議名	期 日	会 場 名 住 所	主管（事務局）
1	北海道	校長会総会 研究協議会	7月28日(月)	北海道帯広工業高等学校 帯広市清流西2-8-1	北海道帯広工業高等学校
		工業教育 研究大会	7月29日(火)・30日(水)	同 上	同 上
2	東 北	校長会総会 研究協議会	10月15日(水)	ホテルメトロポリタン盛岡 盛岡市盛岡駅前北通2-27	岩手県立盛岡工業高等学校
		工業教育 研究大会	な し	—	—
3	関 東	校長会総会 研究協議会	8月18日(月)～19日(火)	工業教育会館 千代田区飯田橋2-8-1	茨城県立水戸工業高等学校
		工業教育 研究大会	11月21日(金)	茨城県県南生涯学習センター 土浦市大和町9-1	茨城県立下館工業高等学校
4	北信越	校長会総会 研究協議会	8月7日(木)～8日(金)	パレプラン高志会館 富山市千歳町1-3-1	富山県立高岡工芸高等学校
		工業教育 研究大会	な し	—	—
5	東 海	校長会総会 研究協議会	7月22日(火)	サーラシティ浜松 浜松市中央区砂山町1107	静岡県立浜松城北工業高等学校
		工業教育 研究大会	同 上	同 上	同 上
6	近 畿	校長会総会 研究協議会	8月5日(火)～6日(水)	京都先端科学大学太秦キャンパス 京都市右京区山ノ内五反田町18	未 定
		工業教育 研究大会	同 上	同 上	未 定
7	中 国	校長会総会 研究協議会	7月23日(水)	山陽新聞社さん太ホール 岡山市北区柳町2-1-1 ピュアリティまきび 岡山市北区下石井2-6-41	岡山県立岡山工業高等学校
		工業教育 研究大会	7月23日(水)～24日(木)	同 上	同 上
8	四 国	校長会総会 研究協議会	8月20日(水)	愛媛県立松山工業高等学校 松山市真砂町1番地	愛媛県立松山工業高等学校
		工業教育 研究大会	8月20日(水) ～21日(木)	同 上	同 上
9	九 州	校長会総会 研究協議会	8月7日(木)～8日(金)	ホテルウェルビューかごしま 鹿児島市与次郎2丁目4-25	鹿児島県立鹿児島工業高等学校
		工業教育 研究大会	7月28日(月) ～29日(火)	沖縄コンベンションセンター 宜野湾市真志喜4丁目3-1	沖縄県立沖縄工業高等学校

【V】代表校長研究協議会

- 1 代表校長研究協議会を年間2回開催する。
- 2 日程等
 - (1) 第1回令和7年5月26日(月)14時30分～17時00分
工業教育会館
協議内容
①全工協会の令和7年度「方針と計画」について
②工業教育の活性化について
③都道府県からの情報交換
 - (2) 第2回：令和8年1月30日(金) 15時00分～17時00分
工業教育会館
協議内容
①全工協会の令和8年度「方針と計画」について
②工業教育の活性化について
③都道府県からの情報交換

【VI】夏季講習会開催要項

- 1 目的 工業系高等学校の教職員が最新の技術の習得を目指し、生徒の学習指導充実に資する。
- 2 受講資格 本協会会員校教職員で当該学校長の推薦する者
- 3 資料代 講習会一覧表の当該欄を参照
- 4 開催場所 別紙に掲載した各協賛会社（学校を含む）指定の施設等
- 5 実施要項

〔受講の申込み〕

- ①全工協会は講習を実施していただく企業（学校・専門学校・大学を含む、以下協賛会社等と記す）より、講習の内容とスケジュール等の連絡を受け、会員校に周知する。
- ②会員校の教職員は、全工協会のホームページより応募手続きを行い、6月23日（月）までに学校長がWeb承認を行うことにより、全工協会に受講希望者として登録され、申込み完了となる。
- ③申込みは必ず全工協会のホームページの学校ポータルから行うこと。
- ④教職員が応募手続きを行っても、学校長がWeb上で承認を行わないと申込みとはならない。

〔受講者の決定〕

- ⑤申込者数が定員を超えた講習会について、事業部に所属する委員で組織した選考委員会により、様々な条件（同一校から複数の希望者の有無・年齢・経験年数等）を勘案して選考し、受講者を決定する。
- ⑥受講者が決定次第、その可否を申込者全員に通知する（学校長宛てに学校単位でまとめて送付）。
- ⑦受講決定後は、申込者の都合による受講取消はできないので、計画的に応募すること。

〔協賛会社等への連絡〕

- ⑧全工協会が講習会ごとの参加者名簿を作成し、協賛会社等にメールで送付する。協賛会社等が受講者と直接連絡を予定している場合は、これに基づいて行う。
- ⑨連絡可能なメールアドレスは、集合方法の連絡や有料資料代等の支払い方法及び資料の事前郵送、さらに動画配信等のPC環境等の問合せなどに使用する。協賛会社等と受講者との間で、メールや電話等で十分連絡を取り合うこと。

〔受講者への連絡〕

- ⑩受講者には、協賛会社等から直接連絡がある場合と、全工協会から連絡する場合の2通りある。受講者に対し、講習会参加のための具体的な連絡（会場までの交通・持参品等）を行う。
- ⑪オンライン講習会の受講者と協賛会社等は、メールや電話等で十分連絡を取り合うこと。
- ⑫一旦決定した参加者は参加者名簿に記載され各方面に配布されるため、事後に取消・訂正等が生じた場合、協賛会社等のご迷惑になるので、申込みは計画的に行うこと。
- ⑬講師等に失礼のない服装で受講すること。
- ⑭講習会最終日には講習会の全日程を受講した者に修了証書を発行する。修了証書の受領は、対面講習会の場合は、講習会会場にて、オンライン講習会の場合は、後日、所属校へ郵送し、所属校長からとなる。

〔諸経費について〕

- ⑮講習会に要する実際の経費は、全て協賛会社等のご負担による。
- ⑯資料代等は講習会ごとに異なるので、一覧表の該当欄を参照のこと。
- ⑰資料代が有料の講習会については、事前振込か、当日に講習会場にて現金で納入すること。
- ⑱オンライン講習会の有料資料代等の支払い方法及び資料の事前郵送については、協賛会社等と受講者との間で、メールや電話等で十分連絡を取り合うこと。

〔個人情報の取り扱いについて〕

- ⑲取得した個人情報については、夏季講習会の運営以外には使用しない。

【VII】第14回全国工業教育指導者養成講習会実施要項

- 1 主催者 公益社団法人 全国工業高等学校長協会（以下、全工協会という）
- 2 目的 現状を改革し、将来の工業教育を創造できる指導者を育成する。
- 3 内容 講義、グループ討議、実地見学等を通して工業教育に関する内容を研修する。
- 4 後援 公益財団法人 産業教育振興中央会

5 期 間 令和7年7月27日(日)～8月2日(土)の7日間

6 日 程 等

(1) 研修日程 (原則以下のとおり)

① 9:00 ～ 10:30 (休憩 10:30～ 11:00)

② 11:00 ～ 12:30 (休憩 12:30～ 13:30)

③ 13:30 ～ 15:00 (休憩 15:00～ 15:30)

④ 15:30 ～ 17:00 (質疑 17:00～ 17:30)

(2) 実地見学 神奈川県担当

(3) 講師については社会の動向等により変更することもある。

7 対 象 者 以下の資質等を備えた各地区工業高等学校長会から推薦された者(参加者の資質等)

(1) 全工協会の会員校の教諭で、原則として32歳以上で6年以上の教職経験を有し40代半ばまでの者

(2) 工業教育に熱心で、講習会の研修すべてに参加できる気力と体力を有する者

(3) 工業系に属し、工業教育を牽引できる指導者としてふさわしい者

8 参加人数 全国9地区代表24名

9 会 場 工業教育会館

10 費 用 宿泊費、所属校からの交通費、研修費は全工協会で負担。食事代は自己負担。

11 宿泊場所 京王プレッソイン東京九段下(朝食はなし) TEL 03-3511-0202

12 研修報告 受講者は研修後、報告書を速やかに作成し、都道府県工業校長会に提出するとともに、各都道府県等にて必ず報告会を実施すること。

13 参加締切 各地区から推薦を受けた受講者は、所属校長の承諾を受けた後、令和7年5月16日(金)必着で全工協会へ受講申込書(別紙様式:別添)を提出すること。

14 そ の 他 受講者は、参加時に定められた課題レポート(様式1)を7月1日(火)までにE-mailにて提出すること。

送付先: inaba@zenkoukyo.or.jp

15 受講申込書提出先・問合せ先

公益社団法人全国工業高等学校長協会 附属工業教育研究所 稲葉 保

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-8-1 Tel 03-3261-1500 Fax 03-3261-2635

【Ⅷ】第25回高校生海外研修実施要項

1 目 的 国際化時代を迎え、工業高校においては国際感覚を身に付ける教育が求められている。

このような社会状況に鑑み、本協会では工業教育の活性化を図る事業の一環として海外研修を実施する。

2 期 日 令和7年7月19日(土)～7月26日(土)の8日間

3 研 修 地 タイ王国

4 研修内容 現地学生との交流、学校見学、企業見学、文化遺産・史跡の見学等

5 宿 泊 ホテル(ジャスミンランドレジデンスホテル)

6 経 費

(1) 自己負担

① 参加費 5万円

② 自宅と羽田空港間の交通費、パスポート申請料、燃油サーチャージ、空港使用料、空港税、任意の海外保険等は自己負担とする。

(2) 補 助

① 国際線の航空運賃及び現地の交通費、宿泊費、食費等は、全工協会が補助する。

② 遠方からの参加者が負担する航空運賃、新幹線代の往路に関わる交通費の一部を全工協会が補助する。なお、個人が負担する場合に限る。

7 参加条件 次の(1)～(3)をすべて満たす生徒

- (1)全工協会の会員校に所属し、学業・人物ともに優秀で、所属校長と地区代表校長の推薦する生徒
- (2)他の海外研修等に参加した経験のない生徒（修学旅行を除く）
- (3)国際的な感覚を身に付け、今後の学校生活に意欲をもって取り組める生徒

※研修中の公式行事は、制服を着用すること。また、参加者は帰国後、各自報告書(協会指定の形式)を提出すること。

8 参加人員 25名(生徒22名、引率3名)

<9地区の生徒推薦枠>

北海道1、東北3、関東4、北信越2、東海3、近畿3、中国2、四国1、九州3

引率は全工協会から委嘱する。

9 推薦手順

- (1)参加希望者は様式1「高校生海外研修・参加申込書」と様式2「高校生海外研修・参加理由書」(A4用紙800字程度)を所属校長へ提出する。
- (2)所属校長は提出された様式1「高校生海外研修・参加申込書」にある「推薦生徒」欄に記載のうえ、様式2「高校生海外研修・参加理由書」とともに**令和7年5月9日(金)**までに地区代表校長へ提出する。
- (3)地区代表校長は、候補者を選考し、決定したうえで様式4「高校生海外研修参加者推薦書」を作成し、提出された様式1「高校生海外研修・参加申込書」、様式2「高校生海外研修・参加理由書」と合わせて**令和7年5月16日(金)**までに全工協会へ提出する。

※「高校生海外研修・参加申込書」と「高校生海外研修・参加理由書」の様式は、本協会ホームページからダウンロードする。

10 応募締切 **令和7年5月16日(金) 厳守(消印有効)**

※なお、派遣国の事情等により、計画が変更、中止になる場合もある。

<応募書類提出先・問合せ先>

公益社団法人全国工業高等学校長協会 事務局次長 江口 敏彦
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-8-1
TEL 03-3261-1500 eguchi@zenkoukyo.or.jp

◇第25回高校生海外研修における教員参加の実施要項

高校生海外研修実施要項の項目「1～6、10」を準用し、「7～9」は、次のとおりとする。

7 応募条件 会員校の教員(校長の推薦する者)

8 募集人員 若干名

教員枠は、参加生徒数が定員に満たない場合に、定員(22名)から生徒数を引いた数とする。ただし、生徒の定員が満たされた場合は、教員枠は「0」とする。

9 応募手順

- (1)参加希望者は、様式1「第25回高校生海外研修・参加申込書」及び様式2「第25回高校生海外研修・参加理由書」を作成し、所属校長を通して全工協会へ提出する。
- (2)書類作成
様式1及び様式2は、本協会ホームページよりダウンロードする。
保護者氏名・学年等の不必要な箇所は空欄とし、「生徒氏名」は「教員氏名」とする。
- (3)決定通知
校長から推薦された候補者を国際化事業推進委員会で選考して、所属校長へ通知する。

※その他

- (1)現地では引率者の指示に従い、生徒と同じ日程で行動する。
- (2)帰国後、各自報告書(全工協会指定の形式)を提出する。

<応募書類提出先・問合せ先>

公益社団法人全国工業高等学校長協会 事務局次長 江口 敏彦
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-8-1
TEL 03-3261-1500 eguchi@zenkoukyo.or.jp

第 2 5 回高校生海外研修日程表

	月日	曜日	発着地・滞在地	現地時間	交通機関	行動予定・宿泊	食事
1	7/19	土	結団式会場着 (羽田空港周辺)	午後	各自	前日集合 健康観察・結団式・事前研修 結団式会場に集合 結団式後電車でホテルに移動 〈羽田空港のホテル泊〉	夕食
2	7/20	日	羽田ホテル発 羽田空港集合 羽田空港発 バンコク着 バンコク	07:00 07:40 10:35 15:05	無料送迎 TG-683 便 専用バス	羽田空港第 3 ターミナルへ 出国手続き、バンコクへ 入国手続き 専用バスにて夕食会場へ 〈ホテル泊〉	朝食 昼食 (機内) 夕食
3	7/21	月	バンコク	8:00 終日	専用バス	【バンコク市内見学】 (王宮、ワットプラケオ、 ワットアルン、ワットポー、 ワットパクナム、 渡し船乗船) 〈ホテル泊〉	朝食 昼食 夕食
4	7/22	火	アユタヤ バンコク	08:00 09:00 11:00 午後	専用バス	【現地企業訪問】 SMCアユタヤ 説明、施設見学、意見交換会 【アユタヤ見学】 (日本人町跡、ワット・プラ シーサンペット、ワット・ マハタート他) 〈ホテル泊〉	朝食 昼食 夕食
5	7/23	水	バンコク	08:00 09:00 13:30 14:00	専用バス	【大学訪問・交流】 泰日工業大学 授業参加・実習施設見学、 大学生との交流など 【バンコク市内視察】 〈ホテル泊〉	朝食 昼食 夕食
6	7/24	木	バンコク チャチューンサオ バンコク	08:30 10:00 11:45 午後	専用バス	【日系企業訪問】 ファナック・タイ 説明、施設見学、意見交換会 【チャチューンサオ見学】 (ピンクガネーシャ、 100 年市場など) 〈ホテル泊〉	朝食 昼食 夕食
7	7/25	金	バンコク郊外 バンコク バンコク発	午前 午後 19:45 23:15	専用バス TG-682 便	【バンコク郊外見学】 (メークローン線路市場、 水上マーケット) 【バンコク市内見学】 (ハマナコーン・スカイウォ ーク、セントラルワールド) スワンナプーム空港着 出国手続き、羽田へ 〈機中泊〉	朝食 昼食 夕食
8	7/26	土	羽田空港着	06:55		帰国入国手続き 解散式、解散	朝食 (機内)

【IX】ジュニアマイスター顕彰制度 実施要項

1 目的

全国の工業系学科に在籍する生徒が目的をもって意欲的に学習に取り組むことを促すには、生徒が身につけた知識・技術・技能を積極的に評価することが重要である。

本協会では、工業系学科の生徒が職業資格の取得や技術・技能検定の合格を通して、工業に関する知識・技術・技能を修得し、自信と誇りをもって、産業界で活躍できるよう励ますことを目的として、ジュニアマイスター顕彰を実施する。

2 資格認定の基準

取得した資格や合格した検定試験及び各種競技・コンクール等での優秀な成績等をジュニアマイスター顕彰に係る区分表（以後、「区分表」）から得点に換算し申請を行い、合計得点に応じた認定を行う。ただし、申請の条件として、「区分表」の教養系を除いた部分の得点が20点以上であることを必要とする。

認定内容については、合計得点が20点以上かつ30点未満を「ジュニアマイスターブロンズ」、30点以上かつ45点未満を「ジュニアマイスターシルバー」、45点以上を「ジュニアマイスターゴールド」に認定する。なお、過去にジュニアマイスターの認定を受けた生徒が申請する際も、改めて今期の「区分表」で得点を再計算し条件を満たした場合のみ認定する。

3 資格認定の手続き及び日程

前期申請は6月、後期申請は12月に発表予定。

4 顕彰の時期及び交付方法

申請の手続きを経た結果を前期分は8月に、後期分は2月に、ジュニアマイスター顕彰認定委員会での審査を行いジュニアマイスターの認定者を決定する。

認定者がいる所属学校の校長を通して生徒にジュニアマイスターの認定証を交付する。

5 特別表彰制度

ジュニアマイスター顕彰制度特別表彰規程に基づき、ジュニアマイスターゴールドの称号を授与された者及び資格取得指導に成果があった学校の中より、特に、工業技術・技能の向上が顕著である場合に特別表彰を実施する。

【X】生徒・教職員表彰事業（全工協会表彰規程の概要）

成績が顕著であったと推薦された個人またはグループに対して、顕彰委員会が審査し表彰する。

(1) 教職員表彰

都道府県推薦 47件以内、表彰状のみ
 推薦期限 令和7年12月20日(土)
 表 彰 令和8年2月15日(日) 予定

(2) 生徒表彰

都道府県推薦 47件以内、表彰状、記念品(メダル)
 推薦期限 令和7年12月20日(土)
 表 彰 令和8年2月15日(日) 予定

	教 職 員 表 彰	生 徒 表 彰
対 象	普通科・専門科を問わず、全ての教員、事務職員、技術職員の個人またはグループ	生徒の個人またはグループ
内 容	指導法の改善、教材教具開発などの教科指導、クラブ指導、課外指導、特別活動、生活指導、進路指導、施設の充実整備などでの顕著な功績等	学習上の研究、発明、発見、工夫改善、製作、工業技術に関連のあるクラブ活動などで資格取得、全国コンクール優勝など顕著な実績等
推薦経路	当該校長 → 都道府県代表校長 → 理事長	同 左
推薦期限	令和7年12月20日	同 左
表彰連絡	令和8年2月15日までに推薦経路の逆コースで文書にて連絡 (以後毎年2月15日までに連絡)	同 左
表彰方法	当該学校で適当な時期に行う	当該学校で卒業式など適当な時期に行う
表 彰	表彰状のみ	表彰状と記念品(メダル)
表彰件数	各都道府県で1件	同 左
その他	① 本規程は平成元年4月1日より適用 ② 教職員表彰規程の一部を平成15年5月27日改正 ③ 詳細は「本協会表彰規程」参照	

【XI】第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会実施要項

1 趣 旨

近年、若者の製造業離れが進み、ものづくりの技術・技能の継承が危ぶまれている。我が国の持続的発展を維持するためには、産業を支える技術・技能水準の向上を図るとともに、若年技術・技能労働者を確保し、育成することが急務である。

公益社団法人全国工業高等学校長協会（以下、全工協会という）では、各高等学校で取り組んでいる、ものづくりの学習成果の発表の場として、全国の高校生が一堂に会して、技術・技能を競い合う全国的な大会を企画し、過去23回実施した。

第12回大会より全国9地区を廻っての開催となり、今回は四国地区において、旋盤作業、自動車整備、電気工事、電子回路組立、化学分析、木材加工、測量、溶接の8部門で実施する。

2 日 程

(1) 令和7年11月8日（土）

- 9時00分 関係者集合
- 9時30分 会場等準備
- 12時00分 受付
- 12時30分 部門ごと打ち合わせ（説明・練習作業等）
- 15時00分 来賓・審査員受付
- 16時00分 開会式
- 17時00分 解散

(2) 令和7年11月9日（日）

- 8時00分 関係者集合
- 8時20分 受付
- 9時00分 競技開始
- 11時30分 競技終了、片付け、昼食
- 14時30分 閉会式、記念撮影
- 15時30分 解散、後片付け

3 会 場

(1) 開・閉会式 各競技会場

(2) 競技会場

部 門	会 場
旋 盤 作 業	愛媛県 愛媛職業能力開発促進センター（ポリテクセンター愛媛） 〒791-8044 愛媛県松山市西垣生町 2184 TEL 089-972-0329
自 動 車 整 備	香川県 学校法人 穴吹学園 専門学校 穴吹工科カレッジ 〒761-8056 香川県高松市上天神町 722-1 TEL 087-815-3200
電 気 工 事	徳島県 徳島県立徳島科学技術高等学校 〒770-0006 徳島県徳島市北矢三町 2丁目 1-1 TEL 088-631-4185
電子回路組立	高知県 高知県立高知東工業高等学校 〒783-0006 高知県南国市篠原 1590 TEL 088-863-2188
化 学 分 析	愛媛県 愛媛県立松山工業高等学校 〒790-0021 愛媛県松山市真砂町 1番地 TEL 089-931-8195
木 材 加 工	香川県 香川地域職業訓練センター 〒761-8031 香川県高松市郷東町 587-1 TEL 087-882-2854
測 量	高知県 高知県立高知工業高等学校 〒781-8010 高知県高知市棧橋通 2丁目 11-6 TEL 088-831-9171
溶 接	徳島県 徳島県立中央テクノスクール 〒770-0865 徳島県徳島市南末広町 5丁目 23-64 TEL 088-678-4690

4 主 催 公益社団法人全国工業高等学校長協会

5 主 管 四国工業教育研究会

6 共 催 香川県教育委員会 徳島県教育委員会 高知県教育委員会 愛媛県教育委員会

（申請予定、順不同）

7 後 援 文部科学省 経済産業省 厚生労働省 国土交通省 農林水産省（公財）産業教育振興中央会 （公財）日本自動車教育振興財団 中央職業能力開発協会 （一社）日本溶接協会

（申請予定、順不同）

8 参加資格

- (1) 全工協会会員校に在籍し、卒業後の進路先を報告できる生徒とする。
- (2) 次の保険に加入していること。

- ① 独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済
 - ② 産業教育振興中央会賠償責任保険
 - ③ 産業教育振興中央会傷害保険
- ※ ただし、②③の費用については主催者が負担する。

9 競技部門及び生徒

(1) 競技部門及び出場選手数

部 門	出場選手数		
	各地区選出	開催地選出	計
旋 盤 作 業	9	1	10
自 動 車 整 備	9	1	10
電 気 工 事	9	1	10
電子回路組立	9	1	10
化 学 分 析	9	1	10
木 材 加 工	9	1	10
測 量	27 (9 組)	3 (1 組)	30 (10 組)
溶 接	9	1	10
合 計	90 名	10 名	100 名

(2) 出場者の決定

- ① 出場者は、全工協会が組織する全国 9 地区及び開催地の校長会から推薦された生徒とする。その選出方法は、該当校長会に一任する。
- ② 各地区及び開催地から推薦できる出場者を、令和 7 年 9 月 12 日（金）までに、所定の用紙を用いて実行委員長まで報告すること。

10 表 彰

(1) 各賞

表彰は部門ごとに表彰するものとし、全工協会理事長賞を授与する。ただし、各省庁、(公財)産業教育振興中央会については申請予定。また、各部門第 1 位から第 3 位までは評価結果を公表し表彰する。それ以外は総合点だけ公表する。

(2) ジュニアマイスター顕彰制度の得点対象

各部門第 1 位から第 3 位は、ジュニアマイスター顕彰制度の得点として申請することができる。

(3) 各部門第 4 位以下については、敢闘賞を授与する。

11 審 査

(1) 審査基準の策定と公表

- ① 審査基準は、事前に策定し公表する。
- ② 審査員は、審査基準にしたがい審査判定する。
- ③ 同点の場合の優先順位は、あらかじめ協議しておく。

(2) 審査員

審査員は、企業の技術者、学識経験者などに委嘱するものとし各部門 3 名を基本とする。

12 費 用

(1) 大会参加費無料

(2) 補助金

- ① 交通費 一定の割合額を補助する。
- ② 宿泊費 一定額を補助する。
- ③ 引率教員への補助はしない。

13 競技規定

- (1) 各競技とも課題に併記する。
- (2) 全工協会の Web ページに掲載する。

14 その他

宿泊場所は、各自で予約する。

15 問合せ

(1) 公益社団法人 全国工業高等学校長協会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-8-1
TEL 03-3261-1500 FAX 03-3261-2635

(2) 実行委員長 愛媛県立松山工業高等学校 校長 宮地 洋安

〒790-0021 愛媛県松山市真砂町 1 番地
TEL 089-931-8195 FAX 089-931-8860

(3) 大会事務局 愛媛県立新居浜工業高等学校 教頭 高橋 眞吾

〒792-0004 愛媛県新居浜市北新町 8 番 1 号
TEL 0897-37-2029 FAX 0897-37-6440

(4) 運営等に関する問合せ先

takahashi-shing@school.esnet.ed.jp

(5) 競技課題に関する問合せ先

nomoto-jiyun@school.esnet.ed.jp

【課題に関する問い合わせについて】

- (1) 課題に関する問い合わせは、質問内容に齟齬をきたさないため、所定の様式を用いて E-mail の添付ファイル(PDF 形式)でお願いします。なお、メールの送信先及び問合せ文書様式は、全工協会の Web ページに掲載します。
- (2) 問い合わせに対する回答は、質問校名を記載のうえ、Q & A の形式で Web ページに掲載します。
- (3) 全工協会事務局への課題に関する問い合わせはご遠慮ください。

【XII】全日本ロボット相撲大会 2025 開催要項

1 趣 旨

高等学校生徒並びに大学等の学生、一般社会人に、ロボット作りを通じて技術の基礎・基本を確実に習得させるとともに、技術研究の目標と実際に問題解決する体験の機会を与え、もって生徒・学生等の学習意欲の向上と自発的、創造的な学習態度の育成に資する。併せて新技術への関心と夢を育み、ロボット技術の向上を目指す。

令和 7 年度から、より多くの方にロボット作りに取り組む機会を増やすことを目的として 500g クラスを新設し、地区予選会・決勝大会を開催する。

2 「高校生ロボット相撲全国大会 2025」(決勝大会)

- (1) 主 催：公益社団法人全国工業高等学校長協会
- (2) 後 援(申請予定)：文部科学省、経済産業省、公益財団法人産業教育振興中央会
- (3) 協 賛：富士ソフト株式会社
- (4) 開催日：令和 7 年 11 月 22 日(土)
- (5) 会 場：ビッグパレットふくしま、福島県郡山市
- (6) 参加者：3kg クラスと 500g クラスの自立型、ラジコン型とも各地区より選出された代表者
- (7) 表 彰：賞状 文部科学大臣賞(予定)、経済産業大臣賞(予定)、
公益財団法人産業教育振興中央会長賞(予定)、
公益社団法人全国工業高等学校長協会理事長賞
副賞：富士ソフト株式会社賞

【XIII】第 42 回全国製図コンクール実施要項

1 名 称：全国製図コンクール

2 目 的：各学科の専門分野の製図に関する基礎的な知識と技術を総合的に習得し、製作図・設計図などを正しく読み、作成する能力を向上させるために、課題を与えて全国的なコンクールを実施し、設計製図に対する学習の励みとする。

3 主 催：公益社団法人 全国工業高等学校長協会

4 内 容：コンクールは校内製図コンクール、全国製図コンクールからなる。

[校内製図コンクール]

- (1) 本コンクールの主なねらいは校内製図コンクールにあるので、必ず実施すること。
- (2) 校内で佳作 3 点、優秀賞 3 点を審査し(校内製図コンクール参加者が 20 名以下の場合は優秀賞 1 点のみ)、優秀賞の中から最優秀賞候補作品 1 点を主催者に応募する。
- (3) 最優秀賞の審査は主催者が行うこととする。
- (4) 主催者によって最優秀賞と認められた場合、最優秀賞が優秀賞より優先される。
- (5) 最優秀賞の審査結果は、ホームページに発表する(12 月中旬)。
- (6) 主催者は報告・結果に基づいて表彰状を授与する。

[全国製図コンクール]

- (1) 主催者は令和 7 年 12 月中旬までに、先に定めた最優秀作品の中から最優秀特別賞を審査する。
審査の結果は、ホームページ及び機関誌「工業教育」1 月号に発表する。
- (2) 全国製図コンクールの表彰は、主催者賞として、最優秀特別賞(表彰状・表彰楯)を授与する。
産業教育振興中央会の表彰に該当する作品がある場合には、産業教育振興中央会に産業教育振興中央会長賞(最優秀特別賞・表彰状)を申請する。
- (3) 最優秀特別賞は、機械系・電気系を併せて 20 名以内とする。
- (4) 応募作品は返却しない。
- 5 対 象：本協会会員校の生徒とする。
- 6 課 題：第 42 回全国製図コンクール課題(機械系、電気系)による。

7 応募方法：

- (1) ホームページより、Web 上でエントリーする(期間：令和7年9月1日(月)～9月30日(火))。
- (2) 校内審査の結果を Web 上で報告する。また、最優秀賞候補作品 1 点(厳守)を主催者に送付する(送料各校負担)。(報告・提出締切：令和7年10月31日(金))
※8月上旬に当協会ホームページに Web 上の操作についてマニュアルを掲載します。
※作品の送付は受付整理の都合上、平板挟みでお願いします。
※エントリーしていない学校からの作品は受付できません。

【XIV】第23回高校生技術・アイデアコンテスト全国大会実施要項

- 1 目的：現代の工業技術の進展に伴い、技術的課題を改善するだけでなく、身に付けた知識、技術及び技能を活用して、ものづくりができる創造的な能力と実践的な態度の育成が求められている。本事業を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な態度を育てる。
- 2 主催：公益社団法人 全国工業高等学校長協会
- 3 後援：文部科学省、厚生労働省、経済産業省、特許庁（いずれも申請予定）
- 4 応募日程：募集期間 令和7年11月4日(火)～令和7年12月24日(水)必着
- 5 応募資格：全工協会会員校の生徒（個人、グループのいずれでも可）
- 6 発表：令和8年1月23日(金)
該当校に連絡の上、全工協会ホームページにて発表する。
- 7 表彰 部活動部門、課題研究部門としてそれぞれに
 - (1) 最優秀賞(1点)、優秀賞(1点)、理事長特別賞(1点)・・・賞状を授与する。
 - (2) 佳作・・・賞状を授与する。
 - (3) 賞状は後日発送する。
- 8 特典：入賞作品はジュニアマイスター顕彰制度の得点になる。ただし、グループで入賞した場合は5名以内が申請の対象となる。
- 9 応募方法：以下の2点を募集期間中に全工協会へ送付する。
 - (1) 応募書類
 - ①応募書類は協会ホームページよりダウンロードし、内容は4ページ以内に収めること。
 - ②作品を研究、製作するにあたり、先行事例や参考・引用するような文献があった場合は、先行事例名、参考文献、引用文献、出典を明らかにすること(例：インターネット等からの引用の場合、HPアドレス等)。
 - ③チェックシートを提出すること(チェック項目を確認しレ点をつけること)。
 - ④グループで応募の場合は【別紙1】を添付する。
 - (2) 動画(記憶媒体はCD、DVD、USBメモリー)
 - ①ファイル形式はMPEGとし、ファイルサイズは200MBまでとする。
 - ②時間は1分以内に収め、目的・原理・機能・動作・セールスポイントを必ず含める。
 - ③ファイルの形式やサイズ、動画時間が指定外の場合は対象外とする。
- 10 審査
 - (1) 外部審査員を含む審査委員会による。
 - (2) 従来にない新しいアイデアが盛り込まれているもの(商品化、特許認定等がなされていない)。
 - (3) 工業製品を原則とする(理論、方法など実体の無いものは不可)。
 - (4) 工業製品の部品でもよい(例 自動車のバックミラー、ドアの鍵など)。
 - (5) 試作品が完成していること。
 - (6) 最近の作品であること(過去1年以内に開発したものを原則とし、未発表のものとする)。
 - (7) 継続して同じ作品を改良型で出品された場合は、どのような点が改良され、どのような新規性を持たせたのか。
- 11 その他
 - (1) 入賞者への賞状の記名は複数の場合、グループ名又は代表生徒5名までとする。
 - (2) 募集期間後の応募書類、参加者の変更はできないので留意する。
 - (3) 応募の際に知り得た個人情報は、本大会に関わる以外には使用しない。
- 12 応募及び問合せ先：公益社団法人全国工業高等学校長協会
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-8-1 TEL 03-3261-1500 FAX 03-3261-2635

【XV】 ジャパンマイコンカーラリー2026全国大会実施要項

- 1 目的：マイコンカーラリー競技を通してメカトロ技術の基礎・基本の習得、自発的・創造的な学習態度の育成を図るとともに、ものづくりによる課題解決型教育を推進し、新技術への夢を育む。
- 2 主催：公益社団法人 全国工業高等学校長協会
- 3 主管：北海道地区高等学校工業教育研究会ジャパンマイコンカーラリー実行委員会
- 4 後援：文部科学省、北海道、北海道教育委員会、登別市、登別市教育委員会
学校法人片柳学園 東京工科大学 日本工学院専門学校 日本工学院八王子専門学校
日本工学院北海道専門学校、(公財)日本自動車教育振興財団（依頼予定）
- 5 協力：(株)日立ドキュメントソリューションズ、ルネサスエレクトロニクス（株）
- 6 開催日時：令和8年1月10日（土）、11日（日）
- 7 会場：北海道地区 日本工学院北海道専門学校体育館
- 8 大会運営：大会は、ジャパンマイコンカーラリー大会運営規則及び各競技規則に基づき実施される。
- 9 競技方法：
 - (1) Advanced Class、Basic Class
競技は2台並走のタイムレースとし、各々2回の走行のベストタイムによる予選と、成績上位による決勝トーナメントによって行う。決勝トーナメントの台数は、Advanced Classは32台、Basic Classは16台とする。
 - (2) Camera Class
2回の走行のベストタイムにより順位を決定する。
 - (3) その他
詳細は、大会運営規則及び各競技規則によるものとする。
- 10 参加資格：原則として、本協会会員校、または特別支援学校の高等部に在籍し、地区大会において代表権を獲得した者。
- 11 表彰：
 - (1) Advanced Class、Basic Class 個人戦の表彰は次のとおりとする。
優勝から第3位までの個人に賞状と盾またはそれに準ずる物、第4位～第8位までの個人に賞状を授与する。
 - (2) Camera Class 個人戦の表彰は次のとおりとする。
優勝から第3位までの個人に賞状と盾またはそれに準ずる物、第4位の個人に賞状を授与する。
- 12 参加申込：申込期日は、地区ごとに主管校と協議して定める。
- 13 その他：
 - (1) マシンは各競技規則に基づき、指定された部品で製作されたものとする。
 - (2) 大会運営規則及び各競技規則が予告なく改訂されることがある。
 - (3) 感染防止のため、主催者が決めたその他の措置を厳守し、主催者（JMCR事務局）の指示に従うこと。

令和 7 年度 全国工業高等学校長協会 役員 (案)

No.	役員名	氏名	学校名
01	理事長	守屋 文俊	東京都立中野工科高等学校
02	副理事長	日置 賢司	神奈川県立横須賀工業高等学校
03	〃	加藤 満明	愛知県立愛知総合工科高等学校
04	〃	東 秀行	大阪府立堺工科高等学校
05	理事	諸橋 宏明	北海道札幌工業高等学校
06	〃	佐藤 貴文	秋田県立秋田工業高等学校
07	〃	染谷 明生	埼玉県立川越工業高等学校
08	〃	草刈 廣直	千葉県立千葉工業高等学校
09	〃	釧持 利治	東京都立六郷工科高等学校
10	〃	須田 孝之	神奈川県立磯子工業高等学校
11	〃	岩原 善延	富山県立富山工業高等学校
12	〃	松川 明義	鳥取県立米子工業高等学校
13	〃	宮地 洋安	愛媛県立松山工業高等学校
14	〃	北島 弘明	長崎県立長崎工業高等学校
15	〃	森田 勉	岩倉高等学校
16	〃	竹田 直人	元新潟県立新潟工業高等学校
17	監事	桑田 達也	昭和鉄道高等学校
18	〃	久松 政信	茨城県立水戸工業高等学校
19	〃	茂出木 健	栃木県立足利工業高等学校

※上記役員は全て非常勤（現職校長及び外部理事）

令和7年度 全国工業高等学校長協会 都道府県私学代表校長一覧(案)

No.	都道府県	氏名	正式学校名	No.	都道府県	氏名	正式学校名
01	北海道	諸橋 宏明	北海道札幌工業高等学校	25	滋賀	獅子堂秀雄	滋賀県立彦根工業高等学校
02	青森	工藤 和樹	青森県立弘前工業高等学校	26	京都	野村 善之	京都府立工業高等学校
03	岩手	菅原 基	岩手県立盛岡工業高等学校	27	大阪	中井 宏典	大阪府立布施工科高等学校
04	宮城	山中 弘記	宮城県工業高等学校	28	兵庫	岩井 高士	兵庫県立兵庫工業高等学校
05	秋田	佐藤 貴文	秋田県立秋田工業高等学校	29	奈良	乾井 学	奈良県立王寺工業高等学校
06	山形	阿部 新吾	山形県立長井工業高等学校	30	和歌山	畠 守彦	和歌山県立和歌山工業高等学校
07	福島	長南 国彦	福島県立福島工業高等学校	31	鳥取	松川 明義	鳥取県立米子工業高等学校
08	茨城	久松 政信	茨城県立水戸工業高等学校	32	島根	松原 紀夫	島根県立松江工業高等学校
09	栃木	石島祐太郎	栃木県立宇都宮工業高等学校	33	岡山	河本裕次郎	岡山県立岡山工業高等学校
10	群馬	中村 正典	群馬県立高崎工業高等学校	34	広島	河野 幸浩	広島県立広島工業高等学校
11	埼玉	染谷 明生	埼玉県立川越工業高等学校	35	山口	原田 成光	山口県立下松工業高等学校
12	千葉	草刈 廣直	千葉県立千葉工業高等学校	36	徳島	濱口 和弥	徳島県立徳島科学技術高等学校
13	東京	釧持 利治	東京都立六郷工科高等学校	37	香川	猪熊 伸彦	香川県立坂出工業高等学校
14	神奈川	佐藤 基泰	神奈川県立川崎工科高等学校	38	愛媛	宮地 洋安	愛媛県立松山工業高等学校
15	山梨	萱沼 恵光	山梨県立甲府工業高等学校	39	高知	北村 晋助	高知県立高知工業高等学校
16	新潟	関口 和之	新潟県立新潟工業高等学校	40	福岡	井土 義徳	福岡県立福岡工業高等学校
17	長野	清水 史明	長野県長野工業高等学校	41	佐賀	原口 哲哉	佐賀県立佐賀工業高等学校
18	富山	岩原 善延	富山県立富山工業高等学校	42	長崎	北島 弘明	長崎県立長崎工業高等学校
19	石川	居村 吉記	石川県立工業高等学校	43	熊本	野崎 康司	熊本県立熊本工業高等学校
20	福井	加藤 龍一	福井県立科学技術高等学校	44	大分	江口 哲治	大分県立大分工業高等学校
21	静岡	大澤 貢	静岡県立科学技術高等学校	45	宮崎	中別府勇治	宮崎県立宮崎工業高等学校
22	愛知	加藤 満明	愛知県立愛知総合工科高等学校	46	鹿児島	田中耕一郎	鹿児島県立鹿児島工業高等学校
23	岐阜	堀 秀樹	岐阜県立岐阜工業高等学校	47	沖縄	外間 昌繁	沖縄県立沖縄工業高等学校
24	三重	奥山 敦弘	三重県立伊勢工業高等学校	48	私学	森田 勉	岩倉高等学校

令和7年度 全国工業高等学校長協会 新名誉会員（案）

都道府県	氏名	学校名	在任	期間	摘要
愛知	山口直人	愛知県立愛知総合工科高等学校	代表校長 副理事長	H30/4-R7/3 H30/4-R7/3	○名誉会員
徳島	鎌田敏文	徳島県立徳島科学技術高等学校	代表校長 理事	R4/4-R7/3 R4/4-R6/3	○名誉会員

名誉会員の推薦

- ①理事・監事は、在職年数×2、都道府県代表校長は、在籍年数×1、合計5以上
②理事長・副理事長・事務局長経験者

令和7年度 全国工業高等学校長協会 顧問（案）

顧問氏名

佐藤義雄
豊田善敬
木暮守雄
棟方克夫
後藤博史

顧問の推薦

名誉会員の中から理事長が推薦して理事会で決定する。

令和 7 年度 調査研究部委員会名簿 (案)

令和 7 年 5 月 1 日

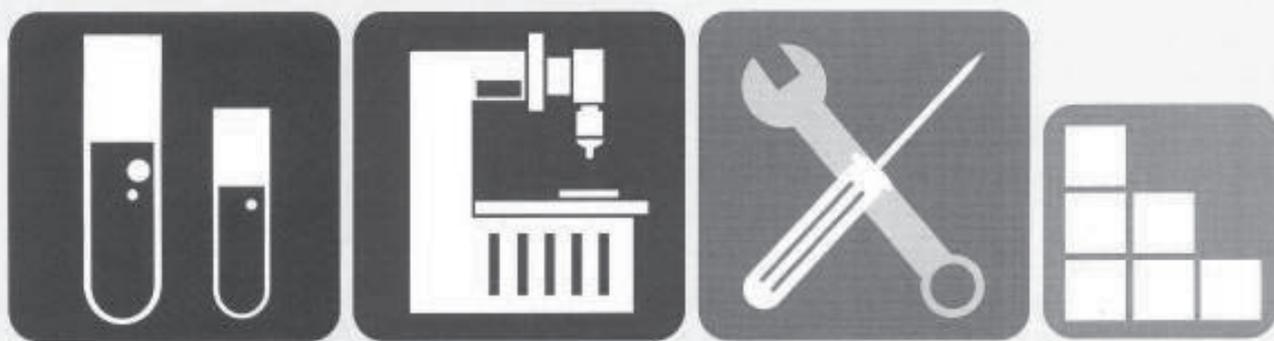
調査研究部			学校電話番号
部 長	東京都立六郷工科高等学校	釧持 利治	03-3737-6565
調査研究部委員名			
学校経営委員会			
委員長	東京都立多摩工科高等学校	坂田 安永	042-551-3435
副委員長	東京都立杉並工科高等学校	阿部 裕一	03-3394-2471
委 員	東京都立北豊島工科高等学校	荒 繁勝	03-3963-4331
委 員	神奈川県立神奈川総合産業高等学校	関 克則	042-742-6111
委 員	埼玉県立新座総合技術高等学校	佐久間博正	048-478-2111
委 員	千葉県立京葉工業高等学校	高嶋 聡明	043-251-4197
進路対策委員会			
委員長	京都府立田辺高等学校	西田 和史	0774-62-0572
副委員長	兵庫県立神戸工業高等学校	湊 浩樹	078-651-2811
委 員	大阪府立佐野工科高等学校	橋本 敏和	072-462-2772
委 員	奈良県立奈良南高等学校	今西 亮	0747-52-4171
委 員	滋賀県立瀬田工業高等学校	横尾 浩	077-545-2510
委 員	和歌山県立和歌山工業高等学校	畠 守彦	073-444-0158
教育課程委員会			
委員長	広島県立広島工業高等学校	河野 幸浩	082-254-1421
副委員長	広島県立呉工業高等学校	清水 爾	0823-71-2177
副委員長	広島県立府中東高等学校	三浦 喜成	0847-41-3300
委 員	広島県立福山工業高等学校	南場 昌幸	084-922-0261
委 員	広島県立宮島工業高等学校	神田 浩二	0829-55-0143
委 員	広島県立三次青陵高等学校	高田 伸司	0824-66-1212
入学対策委員会			
委員長	神奈川県立商工高等学校	川島 俊輔	045-353-0591
副委員長	神奈川県立小田原城北工業高等学校	石川 晋吾	0465-36-0111
委 員	東京都立葛西工科高等学校	鈴木 邦夫	03-3653-4111
委 員	東京都立八王子桑志高等学校	奥脇 次郎	042-663-5970
委 員	東京都立練馬工科高等学校	林 努	03-3932-9251
委 員	埼玉県立久喜工業高等学校	島田 利博	0480-21-0761
委 員	千葉県立東総工業高等学校	君塚 一彦	0479-62-2522

令和7年度 調査研究部 年間活動計画 (案)

令和7年度の委員会活動を次のような年間計画で実施を予定します。よろしくお願い申し上げます。

- 1 令和年10月から令和7年1月末
各委員会で、質問項目の追加や訂正及び削除を検討する。(事務局提案も含む)
調査内容(アンケート)の調整(不易と流行に対応したもの)。
進路対策委員会から全日制工業科卒業生の離職率調査の報告(1月中旬)

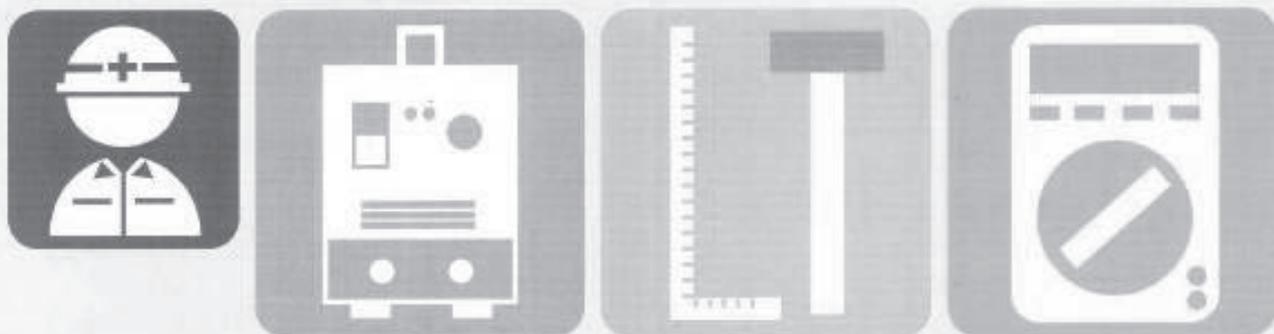
第2回代表校長会議(R7.1.30)に離職率調査の報告資料を配付する。
- 2 2月～3月
調査内容(アンケート)の決定(新委員長等への引継準備も含む)。
アンケート内容等を全工協会に報告。
SEにより、入力画面の作成、ソフトのテストを行う。
- 3 3月末～4月
新委員長、新委員の選出及び引継。
新委員長名、新委員長のメールアドレス・新委員名を全工協会事務局に報告。
- 4 5月1日(木)各都道府県代表校長へ調査依頼文をメールで送付し、会員校への転送を依頼する。
- 5 5月8日(木) 悉皆調査・代表校長調査を開始する。 全工協会のホームページから入力。
- 6 6月4日(水)15:00から第1回調査研究部企画会議を開催。
部長・委員長会議を一度行って調査集計分析について周知を図ることを目的に昨年度から開催。
- 7 6月6日(金)
会員校からの回答(入力)締め切り日。 未入力校には、協力要請の催促連絡をする。
よって、最終締め切り日を6月20日(金)とする。
- 8 7月上旬
調査回答データを各委員長に該当する資料を印刷して送付する。
委員長には、電子データも送信する。委員長は、各委員に連絡する。
- 9 7月上旬～8月19日(火)
各委員会を開催し、調査結果の整理検討、まとめを行う。
「8月20日(水)までに、冊子製本用「報告書原稿(電子データ)を事務局に提出」。
すぐに印刷発注を実施する。
- 10 9月上旬～
初稿・再校の校正は各委員長に依頼。
発表冊子(調査研究報告書)の、校正、印刷完了(約1ヶ月間)
- 11 10月上旬
秋季研究協議会開催地事務局(東北地区・岩手県)へ調査研究報告書(冊子)発送。
- 12 9月下旬～10月上旬
第2回調査研究部企画会議、9月26日(金)を予定。
- 13 10月～11月にかけて、進路対策委員会で全日制工業科卒業生の離職率調査を開始する。
- 14 令和7年10月16日(木)～17日(金)(予定)
第73回 秋季研究協議会(東北地区・岩手県担当)で発表。



第25回 高校生ものづくりコンテスト全国大会



2025年
11月8日(土)
11月9日(日)



会場

旋盤作業：愛媛職業能力開発促進センター
(ポリテクセンター愛媛)

化学分析：愛媛県立松山工業高等学校

自動車整備：学校法人穴吹学園
専門学校 穴吹工科カレッジ

木材加工：香川地域職業訓練センター

電気工事：徳島県立徳島科学技術高等学校

測量：高知県立高知工業高等学校

電子回路組立：高知県立高知東工業高等学校

溶接：徳島県立中央テクノスクール

主催：公益社団法人 全国工業高等学校長協会

主管：四国工業教育研究会

共催：香川県教育委員会 徳島県教育委員会
高知県教育委員会 愛媛県教育委員会
(申請予定、順不同)

後援：文部科学省 経済産業省 厚生労働省 国土交通省 農林水産省
(公財)産業教育振興中央会 (公財)日本自動車教育振興財団
中央職業能力開発協会 (一社)日本溶接協会 (申請予定、順不同)

ポスター制作：川崎市立川崎総合科学高等学校 デザイン科 富安 夏鈴



専門高校等の生徒による学習成果発表の祭典
第35回全国産業教育フェア福島大会



産業から変わる福島の未来へ
エールで咲かそう福の華へ

さんぽんフェア福島

2025



イラストデザイン：福島県立福島工業高等学校 キャッチコピー：福島県立福島商業高等学校
電気科 岡根 麗生 経営ビジネス科 佐藤 律希

令和7年

10/25±26日

主催

第35回全国産業教育フェア福島大会実行委員会、文部科学省、福島県、
福島県教育委員会、郡山市、郡山市教育委員会、公益財団法人産業教育振興中央会、
全国産業教育振興会連絡協議会、福島県産業教育振興会

問い合わせ先

第35回全国産業教育フェア福島大会実行委員会事務局（福島県教育庁高校教育課内）
〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号（西庁舎5階）
TEL.024-521-8643 FAX.024-521-7973
URL <https://koukou-s.fcs.ed.jp>

会場

ビッグパレットふくしま（福島県産業交流館）
郡山総合体育館
学校法人 郡山開成学園 郡山女子大学
学校法人 聖光学院 聖光学院高等学校



大会HPはこちらから▲

産業から変わる福島の未来
～エールで咲かそう福の華～

さんフェア福島

2025



専門高校等の生徒による学習成果発表の祭典
第35回全国産業教育フェア福島大会

開催日程

令和7年 10/25 土

令和7年 10/26 日

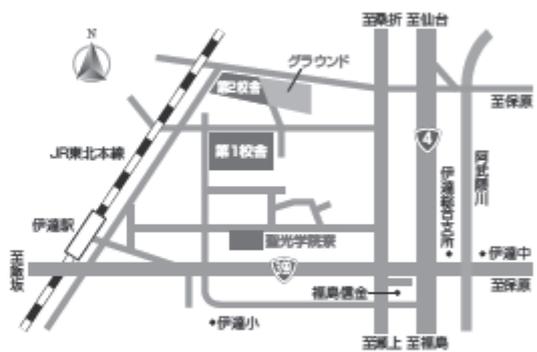
会場	日程	9	10	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	16		
郡山市 ビッグパレットふくしま	多目的展示ホールA (ステージ設置)	総合 開会式	参加・交流イベント							参加・交流イベント							参加・交 流イベント	総合 閉会式		
	多目的展示ホールB	各専門部作品展示・体験コーナー 企業・大学・専門学校等ブース出展 文部科学省事業展示																		
	多目的展示ホールC	各専門部作品展示・体験コーナー 全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト(農業部) 全国作品展示・展示販売コーナー																		
	コンベンションホール AB	各専門部作品展示・体験コーナー フラワーアレンジメント[展示] 全国作品展示・展示販売コーナー																		
	中会議室 A	全国高校生観光ビジネスアイデアコンクール (商業部)																		
	中会議室 B	作品・研究発表																		
	郡山女子大学	全国高校生フッキング コンテスト(家庭部) [準備]																		
郡山総合体育館	全国高等学校ロボット競技大会(工業部) [準戦・公式練習]								開会式				全国高等学校ロボット競技大会(工業部)				閉会式			
郡山ビューホテル アネックス	第67回 全国産業教育 振興大会																			
伊達市 聖光学院高等学校	全国高校生 介護技術コンテスト (福祉部)[準備]																			
全国高校生介護技術コンテスト(福祉部)																				

会場 ビッグパレットふくしま(福島県産業交流館)

郡山総合体育館
学校法人 郡山開成学園 郡山女子大学



会場 学校法人 聖光学院 聖光学院高等学校



※ 開催日程に掲載したイベント内容、会場及び日程については、令和6年9月現在のものであり、今後変更する場合があります。

最新の情報は、下記二次元コードから大会ホームページをご覧ください。



大会HPはこちらから ▲

全工協会 令和7年度 年間行事予定

令和7年4月1日

日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	日
1	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	日	1
2	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	月	2
3	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	火	3
4	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	水	4
5	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	木	5
6	日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	金	6
7	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	土	7
8	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	日	8
9	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	月	9
10	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	火	10
11	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	水	11
12	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	木	12
13	日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	金	13
14	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	土	14
15	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	日	15
16	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	月	16
17	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	火	17
18	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	水	18
19	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	木	19
20	日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	金	20
21	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	土	21
22	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	日	22
23	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	月	23
24	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	火	24
25	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	水	25
26	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	木	26
27	日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	金	27
28	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	土	28
29	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	日	29
30	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	月	30
31	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	火	31
備考		・調査研究部 ・第1回企画会議			・8/5-6 近畿地区 工業教育研究大会 ・8/20-21 四国地区 工業教育研究大会 ・7/29-30 北海道地区 工業教育研究大会			・上野陸基(中野) ・11/21 関東地区 工業教育研究大会					備考

令和7年度 事務局・研究所の各種検定・事業等担当

氏名	職名	検定・工業基礎学カテテスト	事業	協会運営・その他
渡邊 隆	局長		協会事業全般統括	事務局実務全般統括(関係省庁及び対外団体等連絡調整・折衝・事務局運営全般、会館管理)
湯澤 修一	次長	検定・工業基礎学カテテスト統括(工情教・電気)	総会統括、委員会・講習会統括、イベント関係統括(ものづくりコンテスト)、国際化事業統括、ロボット人材育成、ジュニアマイスター顕彰等	事務局実務全般(関係省庁及び対外団体等連絡調整・折衝・事務局運営全般、会館管理)、局長補佐
江口 敏彦	次長	検定・工業基礎学カテテスト(建築・繊維)	総会、委員会・講習会、イベント関係統括(ロボット相撲、ジャパソマイコンカーラリー)、国際化事業、ジュニアマイスター顕彰等	事務局実務全般(関係省庁及び対外団体等連絡調整・折衝・事務局運営全般、会館管理)、局長補佐
水野 静佳	総務担当係長	計算技術検定、リスニング英語検定	総会主任、ジュニアマイスター顕彰	総務統括
大谷 貴子	主事(再任用)	情報技術検定	貸し会議室、全工ノート販売、その他業務補助	総務関係(会員校入退会管理、文書発送補助、検定試験関連)
谷川 裕子	庶務担当主任	工業基礎学カテテスト	生徒教職員表彰、秋季研究協議会統括	庶務統括(理事会、業務執行理事会、運営連絡協議会、推進事業費)、総務関係(公印取扱責任者、対外文書関係全般)
中村 和生	ICT担当主任	検定・工業基礎学カテテストWEB入出力支援	ジュニアマイスター顕彰	情報統括、学校マスタ管理、会員名簿、要覧等
金勝 渓子	主任補佐	基礎製図検定	総会、工業教育指導者養成講習会、全国製図コンクール、人材は工業高校にありプロジェクト、全校発送	ICTに関わる業務(ホームページ管理)、総務(全校文書発送)
新倉真由美	経理担当主任		各事業補助、法人登記・内閣府提出(経理)	経理統括(会費徴収等)
竹野 啓子	主事	グラフィックデザイン検定	総会、各事業補助・法人登記・内閣府提出(経理)	経理関係業務、備品管理、総会参加確認(参加費徴収)、検定等保険申請、出張手配
楚山 真理	主事	局次長庶務、工業基礎学カテテスト、パソコン利用技術検定(委員会)	局次長庶務関係(国際化事業、ジャパソマイコンカーラリー)、総会、秋季研究協議会補助、その他業務補助	事務局実務全般(理事会議事録、内閣府提出、規程見直し)、総務関係(会議室管理等)、庶務関係(起案書整理等)
宮原 典子	主事	局次長庶務、機械製図検定、パソコン利用技術検定(問題集)	局次長庶務関係(ものづくりコンテスト、ロボット相撲)、総会、後援名義申請許可、その他業務補助	事務局実務全般、総務関係(規程見直し)、庶務関係(工業教育編集委員会、賞状管理等、高大連携)
金内江津子	主事	初級CAD検定、計算技術検定(問題集)	総会、技術・アイデアコンテスト、学科別研究会関係(補助金)、その他業務補助	庶務関係(協会誌、消耗品等の物品発注、全工資料リスト、工業教育誌発送、廃棄物関連、文書受信簿、郵便整理、新聞連絡、印刷機の保守)
矢野 健一	主任研究員		令和7年度は、①収支対策等検討 ②大学指定校特別推薦拡大 ③広報活動 ④規程集等見直し等	
稲葉 保	主任研究員		工業教育指導者養成講習会、4委員会のデータ収集と冊子製作、学科別研究会・9地区(補助金配付、収支報告書の作成、付属研究所事業報告・工業教育「編集委員会・原稿校正、要覧作成、工業基礎学カテテスト(化学、デザイン)、高校生技術・アイデアコンテスト、その他	
居石 博幸	主任研究員		工業教育指導者養成講習会、4委員会のデータ収集と冊子製作、学科別研究会・9地区(補助金配付、収支報告書の作成、付属研究所事業報告・事業計画案作成、機関誌「工業教育」編集委員会・原稿校正、要覧作成、工業基礎学カテテスト(機械、設備、材料)、その他	
			工業教育指導者養成講習会、付属研究所事業報告・事業計画案作成、機関誌「工業教育」編集委員会・原稿執筆依頼、夏季講習会企画・企業開拓、工業科目履修状況調査、工業基礎学カテテスト(土木)、その他	